



学校教育目標 広い視野と豊かな心を持った、
健康でたくましい生徒の育成

東中だより

圓 困 目 標

- ・健康でたくましい生徒
- ・人の心の痛みが分かり、
思いやりのある生徒
- ・進んで学び、感動できる生徒
- ・規律を守り、責任を果たす生徒
- ・厳しさに耐え、自ら努力する生徒

秋の学習活動をさらに紹介します。

主権者教育 としての

都留市議会報告会 と

生徒会役員選挙

今回も、前号までに引き続き、まずは、外部講師による授業を紹介します。

11月2日(木)、都留市議会事務局及び議員の皆様による議会報告会が、3年生の社会科の授業として行われました。これは、都留市当局の、市民に向けた市政の状況を説明するための機会ですが、同時に、18歳で選挙権が得られるようになり、昨今学校教育の世界でも重視されてきている「主権者教育」としての側面も含めて実施されました。



この授業は、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動して、よりよい国や社会を創造していくために、選挙などに参加したりすることで、自らが持つ権利を正当に行使できる主権者としての資質・能力を養うことが目的です。3年生は、ほんの数年後には議員を選ぶ立場になるわけですが、その選ばれた議員の皆様がどのような活動をしているのか、議会はどのような仕組みになっているのかなどについて学びました。

当日は、市政全体の様子や状況の説明に続き、質疑応答も行われました。説明では、例えば、市議会について、議員について、定例会について、委員会について、議場について、お願いの届け方についてなどが扱われました。

続く質疑応答では、生徒たちからいくつかの質問が寄

せられました。議員の皆様は真摯に応じてくださいました。

「議員になって大変だったことはありますか」という質問に対しては、「好きでやっているから大変だと思ったことはあ



まりない」というようなお話がありました。人間は、本当に興味や関心があることには本気で向かうことができます。自らの興味・関心を活かして生きることについて考えを巡らせた生徒もいたかもしれません。「能率的で上手な話し合いをするにはどのようにすればよいのか」という質問もありました。それに対しては、特効薬ではなく、「力を合わせて考え、よく話し合うことが大切」であることや「ロバート議事法」、「KJ法」といった話し合いのための具体的な方法や意見集約の仕方についての回答がありました。「行政視察ではどのような視察をするのか」という質問に対しては、「他の自治体の教育状況を視察して都留市の教育行政に活かすこと」や「ふるさとへの誇りをもって子供たちが育つための教育について」、「議会運営について」、「鳥獣被害とその対策について」、「議員の人数について」などの質問もありました。行政視察を終えると、報告書を作成し、報告会があることも教えていただきました。



質疑応答におけるやり取りの中には、地域における東桂中学校の生徒の姿に感激しているとお話もありました。地域の方に元気にあいさつ

する生徒の様子や、登下校時に地域の方のゴミ出しを手伝ってあげたりご高齢の方を家まで送ってあげたりする生徒の



様子などが紹介されました。このような生徒の姿に触れた地域や議員の方々の喜びの気持ちに触れ、生徒たちからも自然と喜びの歓声があふきました。生徒たちにとって、とても張り合いのある時間となりました。また学校にとっても大変ありがたい時間でした。改めて、子供たちは地域の中で育つということを実感させていただきました。



今回の授業では、都留市の向上のために、政治がどのように行われているのかの一端に触れることができ、自分たちで自分たちの社会や生活を築き上げるということについて、多くを学びました。

そして、このような学びは、現在、その時期となっている生徒会役員選挙に直結する体験ともなりました。立派な姿で東桂中学校の学校づくりに邁進してくれた3年生に代わって、これからは2年生が生徒会役員の中心となります。学校は、今、このような代替わりの時期を迎えています。代々の生徒たちが創り上げてきた東桂中学校を、さらに、どのように発展させていくのか、次は2年生・1年生にその役割を引き継がれようとしています。そのための代表者を民主的な手続きによって選んでいきます。

自分たちの住む社会は自分たちで運営していくという民主主義社会の在り方を、今回の議会報告会と、それに続く実践的学習活動である生徒会役員選挙において学び、将来は、一人一人が豊かな人生を送ることのできる豊かな社会を創る「主体者」、「主権者」となって生きていって欲しいと願います。

なお、生徒会選挙の様子は、次号で紹介いたします。

まちづくり文化祭・東桂 に

参加しました!

11月11日(土)に東桂地区文化祭が、コロナ後はじめて開催されました。事務局の皆様をはじめ、関係者の皆様が万難を排して準備を重ね、開催しました。



その中のステージ部門では、保育園や小学校の子供たちの発表とともに、本校の2年生も文化祭事務局の要請を受け、ソーラン選抜隊として参加しました。学校だよ



りの前号でも紹介しましたが、生徒たちは、朝早い時間や昼休みの時間などを使い、家での練習も加えて努力を重ねてきました。2年生の10月からのこの時期は、日常の学業に加え、部活動の公式戦である支部新人戦や県新人戦、生徒会役員選挙や合唱の取組などがあり、毎日の学校生活の中でほんの隙間もないくらいに学習活動が立て込む時期です。取組が複数重なる生

徒、文化祭に出場したいが部活動公式戦のためソーラン隊を、はじめから、あるいは途中で断念せざるを得なかった生徒など、いろいろな問題を克服しながらの取組でした。



しかし、全校のサポートを受け、担当をする2学年や体育科他の関係教職員は、やるからには生徒たちにとって意義のある、しっかりとした学習活動にしたいと、生徒たちと力を合わせて取り組みました。学園祭(桂鮎祭)での全校ソーランの取組の成果を受けて、3年生に代わってこれから学校の中心になる2年生の力量を高めるための目的も持って、教育活動を行いました。





ソーラン節は、もともとはニシン漁が盛んだった北海道のある地域の発祥と言われています。ニシン漁では、船を漕いだり網を引き上げたりするような力仕事のときかけ声をかけて調子を合わせて仕事をしていました。この調子やかけ声をもとに、あ

る歌手がロック調にアレンジし、プロの舞踏家の振り付けも融合して、現代版のソーラン節が生まれました。このソーラン節を当時校内暴力で荒れていた北海道の学校が学校再生の切り札として導入したのが、学校における教育活動としてのソーラン節の始まりです。その学校では生徒たちが一人一人本気で取り組むようになり、バラバラだった生徒たちの気持ちが一つになって、学校は見事再生しました。その後、その学校のソーラン節は平成5年日本民謡民舞大賞でグランプリを獲得し、当時有名だった、中学校を舞台とした学園ドラマの影響もあって一気に全国区となり、多くの学校の教育活動として採用されることとなりました。

東桂中学校においても、学校としての重要な教育活動として設定しています。

東桂文化祭の当日は、本校の生徒たちも、地域や保護者の皆様の前で、とても素晴らしい立派な演技を行い、学習活動の成果や成長の姿を見ていただくことができ



ました。演技の最中は、息を呑みステージ上に釘付けになる方々の姿がありました。演技の直後は、わき上がる拍手、立ち上がりそうになって拍手する方々、なかなか鳴り止まない拍手、アンコールの声などがありました。生徒たちにとって、とても張り合いと達成感・充実感を得られる時間となりました。



また、ステージ発表以外にも、学校単位ではありませんが、地域住民としてそれぞれのグループや組織における役割を担い、お店を営む生徒たちもいました。大人の地域住民ばかりでなく、保育園生や小学生、幼いときからの友達や卒業生など、多くの方々が集い、その中で、生き生きと仕事をしていました。私も抹茶ラテをいただきましたが、寒さも手伝って、大変美味しくいただきました。ごちそうさまでした。

当日は、何人かの方々と言葉を交わす機会をいただきましたが、改めて、「地域に育てられる子供たち」、「子供たちが集う学校が地域に存在することの意味・意義・価値」など、多くのことを改めて感じさせていただきました。



現在の日本では、地域住民の方々が学校教育に参画する「コミュニティ・スクール（学校運営協議会



制度)」という学校づくりの構想が、教職員の働き方改革とともに進められています。都留市においても順次進められています。今回の東桂地区文化祭は、コロナ後の、地域とともにあるこれからの時代の学校の在り方について、多くのことを改めて見つめ直す機会となりました。

東桂中学校の生徒たちは、地域・保護者の皆様に支えられ、健やかに育っていると思います。今回の生徒たちの姿を通して、学校教育活動についてなお一層ご理解いただくとともに、地域の皆様からも生徒たちや学校へお声を寄せていただき、今後も生徒たちの成長を後押ししていただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

今回は誠にありがとうございました。

県大会 優勝!

山梨県交通安全弁論大会

以前にもお知らせしましたが、本校の白川菜里さんが大月警察署管内の交通安全弁論大会で優勝し、県大会へ出場しました。そこで、見事、県優勝の荣誉に輝き、立派な賞状とトロフィ、刺繍による制作の優勝旗を持ち帰りました。これまでに弁論の内容や様子は学校だよりでお知らせしましたので、詳細は第13号をご覧ください。



実は白川さん、後述の親善音楽会で音楽部の発表を行い、その直後に弁論大会会場の南アルプス市桃源文化会館に向かったのです。ご家庭のご協力もいただき大変ありがたかったです。近年では、北杜市の学校が連続で県大会を制覇している状況でしたが、本年は、大月警察署管内での優勝が、交通安全弁論(東桂中)でも防犯弁論(道志中)でも達成されました。当日も負担が大きい中、精一杯力を発揮した白川さんを讃えたいと思います。

なお、優勝の記事は10月31日(火)の山梨日々新聞の朝刊に写真入りで掲載されました。その後、改めての取材が学校でも行われましたので、同新聞に近いうちに、より大きな記事として写真入りで掲載されると思います。その折にはご覧いただきたいと思います。

白川さん、再度になりますが、本当におめでとう!

都留市親善音楽会 に参加しました!

10月26日(木)、都留市親善音楽会が実施されました。これは、都留市小中学校の伝統的な行事であり、小学校と中学校が一同に会して



お互いの発表に触れる貴重な機会です。午前と午後の2部制で、本校は、午後の部に、音楽部と2年生が参加しました。参加校は本校を含め、谷村第一小、都留文大附属小、谷村第二小、東桂小でした。

まず、本校の音楽部による「Loser」と「ウルトラソウル」で午後の部がスタートしました。学園祭(桂鮎祭)のときと同様、最初の発表でした。学園祭ではトップバッターとして、練習を積んだ素晴らしい演奏により学園

祭の始まりにふさわしい温かい雰囲気をつくってくれ、全校生徒の志気も高まりました。



親善音楽会

においても、本校生徒と小学生が聴き入る中、比較的少人数とは思えない立派で素敵演奏を披露し、聴衆の気持ちが一気に音楽会のムードになりました。



素晴らしい小学生の発表が終了し、音楽会の最後に2年生が発表しました。計画が立て込んで忙しい日々の学習活動の中で、時間を何とか

捻出して取り組んできた合唱曲「君と歩こう」です。生徒たちが心を込めて合わせる歌声がうぐいすホールに響きました。「君と歩こう」というタイトルの歌のように、お互いを思いやりながら学校生活を送り学年集団をつくっている2年生の気持ちや心が伝わってくる合唱でした。2年生の合唱は、最高学年になったときを楽しみ



に思わせてくれる、まとまりのある、素晴らしい合唱です。

小学生の立派さには中学校側も感心させられましたが、逆に、本校の音楽部と2年生の発表を通して、中学生としての姿も見ることができたと思います。お互いに見せ合った姿や成果を学校に戻って振り返ることで、小中学校の連携も進みます。

現在、都留市の教育界は、異校種での連携にも心を配っています。特に、東桂地区は、地域の保育園から小学校一校、中学校一校のつながりです。地域の特徴やメリットを活かし、どのように子供たちを育てていくか、これからも大切な課題になってくると思われます。

東桂の学校に通う子供たちは、今回のように、素晴らしい力を発揮できる子供たちです。これからも大切に育て、鍛え、よき社会人にしていってあげたいとも感じた親善音楽会でした。